

坂東地域アグリ通信

平成29年3月20日

坂東地域農業改良普及センター 発行

Tel : 0297-34-2134 Fax : 0297-34-3291

第10回坂東地域アグリセミナーと「閉講式」を行いました。

2月28日（火）、坂東地域農業改良普及センターは、本年度最後となる10回目の坂東地域アグリセミナーを開催しました。今回は新規就農者8名が参加し、病害虫防除に係る講演や座談会を行うとともに、併せて閉講式を行いました。

病害虫防除講座では、病害による被害の見分け方や防除方法、農薬の適正使用等について説明するとともに、受講生に病害診断や農薬の使用についてクイズ形式で行うなど、学び、考えるセミナーとしました。座談会では、一年間を振り返り、今年チャレンジしたことや、現在の悩み等、今後の目標について普及センター職員を交えて情報交換を行いました。

受講生からは「仕事の流れを前もって把握して動けるようになりました。」、「作物栽培の1年の流れを理解できました。」、「農作日誌を必ずつけるようになりました。」等の発言があり、年間を通して全員が農業に関する知識や技術を習得し、農業者としてたくましくなったよう感じました。

閉講式では、センター長が受講生へ「地域を担う農業経営者として育ててほしい。何かあればいつでも普及センターに連絡してほしい。」とエールを送りました。普及センターは、これからも坂東地域を担う農業者の育成を継続し、地域農業の発展を支援していきます。



土づくり堆肥を使って畑の体質改善を図りましょう



土づくり効果の高い堆肥を施用することで、湿害や病気に負けない畑をつくることができます。土づくり効果の高い堆肥は、**C/N比が20前後と高い資材**を指し、主に牛ふん堆肥です。また豚ふん、鶏ふん堆肥のなかで、副資材を多く含むものも該当します。逆に、副資材を含まない発酵鶏ふんなどは、施用後すぐに窒素が効くため肥料的効果は高いですが、土づくり効果は高くありません。

その効果は以下の通りです。

- ①**物理性改善**：有機物が団粒構造をつくり、保水性、排水性が高まる。
- ②**化学性改善**：養分保持能が高まる。
- ③**生物性改善**：有機物中の炭水化物が土壤微生物のエネルギーとなり、生物相が豊かになる。

※**C/N比**：資材に含まれる炭素率（C）を窒素率（N）で割った値。C/N比によって土壤中での分解が異なる。

これらの効果は施用後すぐには分解されない有機物が、土壤の粒子をくっつける、のりの役目をしたり、養分を保持したり、微生物のエサになることで発揮されます。土づくり堆肥の施用で、ほ場の体質改善を図ってみはいかがでしょうか。

堆肥の適正施用量など詳細は普及センターに問い合わせください。また、堆肥生産者リストや堆肥を使った施肥設計については、県畜産協会HPをご確認ください。

<http://ibarakiln.gr.jp/taihihp/index.html>

県西地域「常陸秋そば」サミットin坂東を開催しました

2月23日、JA茨城むつみ本店において、坂東地域そば研究会と坂東地域農業改良普及センター共催による、平成28年度県西地域「常陸秋そば」サミットin坂東を開催し、生産者、製粉業者、流通業者、関係機関等65名が参加しました。

今回のサミットは、茨城県産「常陸秋そば」のブランド力向上を図るため、①気象災害への対応力強化に向けた研修、②実需者から喜ばれるそばの調製・選別に関する意見交換会を行いました。

研修会では、農機メーカーを講師に湿害回避技術とそばの安定多収栽培事例について講演していただきました。また、意見交換会ではクレーム品や異物など、現物を見ながら生産者、集荷業者、製粉業者の立場から意見を述べあい、「常陸秋そば」のブランド力強化のための高品質なモノづくりについて意識を共有しました。

その他にも十割そばの食べ比べや、普及センターからそば加工試作品として「そば湯缶」の紹介、近年、そば栽培で問題になりつつある帰化アサガオ類対策についての情報提供するなど、充実したサミットとなりました。

そばサミットは今年で6年目を迎え、回数を重ねるたびに他産地からの参加者が増えるなど、多くの人を巻き込んだ意義深いイベントに成長しつつあります。

普及センターでは、今後も関係者と連携しながら、そば産地活性化のための活動を支援していきます。



4月 土壤診断実施日のお知らせ



土づくり推進のため土壤診断を受け付けています。個人等の農家の方が対象です。

4月10日前後

4月20日前後

年度切り替えのため、分析日は未定です。念のため、3日程度、余裕を持っての持ち込みをお願いします。

※結果のご連絡には数日かかる予定です。

※10点以上のお持込みは事前に普及センターまでご連絡ください。

編集後記

学生さんは卒業の季節ですね。私たちにも異動の季節がやってきました。学校のクラス分けと同じく、このメンバーで仕事するのは今年だけだと思うと、一期一会という言葉を実感します。(荒井)

